

この「補足」は、全国小学生ラグビー選手権大会に出場するチームの指導者、観客、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にラグビーを楽しめる環境を作るため、以下についてご理解並び周知、ご指導いただきたく、お願い申し上げます。

### 1 試合進行に対する悪質な妨害について〔大会規則3(4)(5)、7(4)(5)〕

(1) レフリー(アシスタントレフリー、サブコントローラーも含む)並びに競技役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対しての悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告以上の処分を科す。悪質な妨害行為とは次の行為を指す。

- ① 時間を空費する行為
- ② 故意の反則
- ③ 相手が反則をしているように見せかける行為
- ④ 暴力行為
- ⑤ 自チームならびに相手チームプレーヤーへの暴言
- ⑥ 競技役員、レフリー・アシスタントレフリー、サブコントローラーへの暴言
- ⑦ その他、レフリー、アシスタントレフリー、サブコントローラーが試合進行の妨げになると判断した行為。
- ⑧ レフリーのコールをすること。  
→罰: プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。**帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。**

(2) 試合中に上記の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。

- ① プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
- ② 帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする(タグの回数は継続)。アシスタントレフリー、サブコントローラー、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
- ③ 警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー、及び自チームを応援する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。

(3) 退場を命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客への罰について

- ① 試合中に退場を命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。プレーヤーの退場は原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。
- ② 帯同コーチ及び観客の退場は終日有効である。原則として翌日以降には持ち越さない。

## 2 タグラグビーのプレーについて

(1) 腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。

- ① ボールを持って自由に動くこと。
- ② 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げること〔パス〕。
- ③ 空中にあるボールを捕球すること。
- ④ 地面にあるボールを拾うこと。
- ⑤ 保持しているボールをインゴールにつけること。
- ⑥ ボールを持っているプレーヤーのタグを取る。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。

(2) プレーヤーは次の行為をしてはならない。

- ① 2本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーする。
- ② ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る。
- ③ ボールを離れたときの位置より前方にボールを投げる〔スローフォワード〕。
- ④ 保持している、または手に触ったボールを前方に落とす〔ノックオン〕。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックオンにはならない。
- ⑤ 相手をかかわす以外の方法でタグを取ることを妨げる。
- ⑥ 相手のボールを奪うあらゆる種類のキック。
- ⑦ レフリングのコールをすること。

## 3 接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めねばならない。一切の接触行為並びに接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為並びに接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

### 1 ボールを持っている時

- ① 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- ② 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
- ③ 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
- ④ 複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
- ⑤ 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る。
- ⑥ タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
- ⑦ タグを取られた後、停止・パスをしようとせず、**（原則、すぐに立ち止まる。ただし**

止まろうとしたが勢いで止まらなかった場合は、3歩を目安に許容する)

- ⑧ 進行方向に背中を向けて走る、**相手をおかわすために1回転以上回転する。**等
- 2 防御するとき
- ① タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
  - ② ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為を指す。
  - ③ タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
  - ④ タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
  - ⑤ 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
  - ⑥ ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
  - ⑦ ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
  - ⑧ ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。(具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。)
  - ⑨ 両手を広げて防御をする。
  - ⑩ タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり、ボールを持ったプレーヤーの前に立ちはだかったりする、等。

#### 4 タグ並びにタグの返し方

- 1 プレーヤーは相手のタグを取ったときには、大きな声で「タグ」とコールするとともに、取ったタグを頭上にかかげるように努めること。
- 2 タグを相手に返すときは、必ず手渡しで相手に返すこと。タグを投げつける、押しつける行為はタグを返す行為として認めない。
- 3 タグを受け取ったプレーヤーは、必ずその場でタグをつけてから再びプレーに参加すること。

#### 5 フリーパス時の注意

- 1 フリーパス時、防御側のプレーヤーは、フリーパス開始地点より速やかに5m下がらなければならない。
- 2 レフリー並びにアシスタントレフリーは、防御側プレーヤーの後退並びに静止を確認してから「プレイ」のコールをかけること。
- 3 防御側プレーヤーの後退・静止が十分ではない状況で競技が始まった場合は、レフリー並びにアシスタントレフリーは直ちに競技を停止し、プレーヤーに注意を与えた上で再びフリー

パスを行わせる。指導にかかわらず後退・静止ができない場合、攻撃側に違反のあった地点でのフリーパスを与える。